

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/8/5 ～2022/9/30)

1. 勉学の状況

オリエンテーションの開始日は8月23日でしたが、私は8月5日にユヴァスキュラに到着し、8月8日からサマーコースに参加しました。2週間のサマーコースを終えたあと、8月23日からオリエンテーションウィークが始まり9月上旬から本格的に授業が始まりました。今回はサマーコースと講義が始まっている3科目について書きたいと思います。

サマーコース-Intensive summer course

少人数制の英語の授業です。授業を通して、英語でのエッセイの書き方、ディスカッション、プレゼンテーションの仕方などを学びます。最後にはエッセイの提出とPLDというペアでのプレゼンテーションのようなものがありました。先生もとてもフレンドリーな方で、リラックスした雰囲気での授業でした。また少人数ということもあり他の受講者とも交流もとりやすいです。Moodleの使い方、こちらの授業の進め方に慣れる機会にもなり、受講してよかったなと感じています。

Finnish History, Culture and Society: an Introduction

10月中旬まではフィンランドの歴史について学び、後半は現代のフィンランドについて学ぶ予定です。現在はフィンランドの歴史について学んでいるところですが、授業の進むスピードが速いように感じています。また、フィンランドの歴史についてほとんど知識がないのですべて理解しようと思うと、人物名や組織名など授業後に調べるが多すぎます。なので、概要だけでもつかめるように努力しています。課題は、毎回の授業内容を踏まえてLecture Diaryをかくことと前半パート、後半パートそれぞれにエッセイの提出が課せられています。

Introduction to Intercultural and Multilingual Communication

異文化コミュニケーションについて学ぶ授業です。授業は、事前の文献講読→講義、隔週でグループディスカッションという流れで進んでいきます。そして課題としては毎回の授業について記載するLearning Logが課されています。グループディスカッションでは、毎回英語力の差を痛感します。たまに会話の内容についていけなかったり、自分だけ意見が薄かったりということがありますが、めげずに発言できるよう努力しているところです。

回によっては文献が多かったり、グループディスカッションで心が折れそうになったりと大変な部分もありますが、先生がとても面白い方で内容もとても興味深いため、毎回楽しみにしている授業の一つです。

Gender studies seminar

現在とっているなかで一番大変だなと感じるのが、この授業です。自分の専門分野と絡め、ジェンダーに関して自分の興味関心があるテーマについて研究トピックをたて、それについてのエッセイを書きます。現在は、テーマを決め終わり、エッセイに向けて文献資料を探しているところです。周りのレベルが高いぶん、ジェンダーに関する知識が少ない私にとっては難しいと感じることが多いです。エッセイの分量も多めなので、計画性をもって進めていきたいと思います。

2. 生活の状況

今のところ、生活で特に苦勞しているところはありません。来た当初は、スーパーの表記がフィンランド語とスウェーデン語のみであるため、買い物に少し苦勞しましたが、それにも徐々に慣れてきました。ただ、物価が思っていたよりも高いです。外食するととてもお金がかかるので、自炊をすることがほとんどです。

気候について、8月は晴れの日も多く、気温も20度前半くらいと過ごしやすい気候でしたが、8月から9月へのかわり目で気温がぐんと下がり、9月の中旬にはダウンを着始めました。これからどんどん寒くなるので、冬にむけて備えていきたいと思います。

街の様子について、ユヴァスキュラは自然豊かな街で、8月には山に入ってブルーベリー摘みやキノコ狩りを体験することが出来ました。そして、たくさんの湖があります。寮の近くにも湖がありとても綺麗です。友達とピクニックをしに行ったり、一緒に運動がてら湖の周りを散歩したりとよく足を運ぶ場所になっています。また、自然に囲まれた街ではありますが、大学とシティセンターが近く、シティセンターでたいていのものが手に入るのでも不便だなと感じることはほとんどありません。また、街の人も親切な方が多いと感じます。欲しいものの場所が分からずに質問しても親切に答えてもらえましたし、困っているときに向こうから大丈夫？と話しかけてくれた方々もいます。



←学生寮近くの湖

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/10/1 ～2022/11/30)

1. 勉学の状況

前回の報告書に記載した授業に加え、10月の後半から新しく2つの授業の受講が始まりました。今回の報告書では、その2つの授業とEOTOというプログラムについて触れたいと思います。

Migration and Transition in a Global World, Lectures

移民・難民に関する事象について様々な視点から捉え、また基本的な理論的枠組みを学んでいます。レクチャー形式の授業ですが、授業までに指定された文献を読み、授業内でその文献の内容についてディスカッションをする時間が毎回あります。また、最後の授業の日にグループでポスター発表があるため、それに関しての作業も進めています。

Migration Policy, Lectures

移民・難民政策について学ぶレクチャー形式の授業です。制度面での話が主になります。千葉大で似たような授業をとっていたため、他の授業に比べて内容の理解はスムーズなように思えます。ただ、ヨーロッパの現状についての説明が中心になっているので、政治的重要人物や国家間の関係性など、他のヨーロッパ出身の学生には常識的な知識が分からず、後で調べたり、友達に質問したりする必要があることもあります。また、11月の半ばにグループワークがあり、そこではそれぞれのグループで担当する国を決め、その国の移民・難民政策についてプレゼンをしました。プレゼンの準備期間が1週間しかなく、またグループの人数も多かったため共同作業を進めるのが大変でした。

EOTO

ペアを組み、お互いの母語(得意な言語)を教えあうプログラムです。私は、フィンランド人の子とペアを組み、フィンランド語を習い、日本語を教えています。ペアはEOTOのページがあるので、そこで募集することが出来ますし、知り合った子と始めることもできます。他の授業の関係上、フィンランド語の基本を学ぶことが出来るコースの受講が難しかったため、挨拶や自己紹介などの基礎から教えてもらっています。教科書ベースで学ぶのとは異なり、一緒に料理をしながら単語や表現を学んだり、注文の仕方など自分が知りたい会話表現を学ぶことが出来たりするため、楽しみながら言語を学ぶことが出来ると思います。

2. 生活の状況

気候について。気温は基本的に氷点下です。ここ最近では-5℃前後の日々が続いていますが、-5℃と聞いて想像するほど寒くないように感じます。また、日に日に日照時間が短くなり、曇りの日も多いため少し太陽が恋しくなってきました。

大学生活について。10月31日から11月6日にかけて、ユヴァスキュラと新座市の友好25周年を記念したFinland-Japan Friendship Weekというものがありました。11月3日にはユヴァスキュラ大学でも日フィン交流イベントが開かれ、日本からの留学生が折り紙や書道のワークショップをしたり、フィンランドの学生と日本の学生と一緒に剣道や茶道などを紹介するブースがあったりと様々なことが行われていました。私は、合唱発表と寿司ワークショップにボランティアとして参加しました。特に寿司ワークショップでは、同じ日本からの留学生の方たちに加え、フィンランド人の学生さんとも一緒に企画をすすめることができ、イベント企画の仕方、イベントについて配慮すべきことなど学ぶことがたくさんあり、とても良い経験になりました。大学のイベントにボランティアで参加するのは2回目なのですが、どちらのイベントでもイベントがスムーズに進むことや参加者が楽しむことだけではなく、ボランティア自身が楽しみながら自分たちのやりたいようにボランティアワークをすることが重要視されており、素敵だなと感じました。



←寿司ワークショップ会場

大学のカフェテリアを借りて行いました。
デコレーショングループの子たちが、折り紙や書道
作品を使い素敵な飾りつけをしてくれました

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/12/01 ～2022/12/31)

1. 勉学の状況

11月の最終週から12月初旬にかけての間にほとんどの授業の講義が終了し、その後は最終課題に取り組んでいました。それぞれの課題に加え、グループワークプロジェクトの発表会もあったため、12月半ばまでは忙しく過ごしていました。今回の報告書では、それぞれの授業の最後の方の様子と最終課題についてまとめたいと思います。

Finnish History, Culture and Society: an Introduction,

後半は、フィンランドの社会システムについて学びました。後半は、トピックごとに先生が変わり、基本的にはLecture形式の授業なのですが、先生によってはDiscussionの時間をとる方もいました。最終課題としては、各回の授業内容と自分なりの意見・分析をするLearning Diaryの提出と授業でテーマになっていたトピックから自身の興味があるものを選択しEssayを書くことが課せられました。

Migration Policy

最終課題は記述形式のテストでした。説明記述の問題で、各大問3、4つ問題文があり、その中から解答する問を選択して、作文用紙のような紙に記述しました。

Gender Studies Seminar

少人数クラスで、お互い顔見知りになってきたのもあって回を重ねるごとに発言の自由度が増してきたように思います。他の受講生が書いたエッセイを読み、それについてOpponentになった人が中心に質問をするのですが、最後の方には、クラスみんなで議論していました。他の国の受講生たちが、英語力も高く、鋭い指摘をするので、最後までついて行くのに必死でしたが、クラスの雰囲気が温かく、楽しみな授業の一つになっていました。最終課題は特になく、自身が提出したエッセイで評価がつけられます。

Migration and Transition in a Global World

最終発表としてグループでの調査をもとにしたポスター発表があったため、それについての準備をしていました。また、最終発表に加え、個人課題としてReading Diaryという各回で課されている購読文献の内容の要約と自分の意見を毎回の授業後に記入するものがありました。

Introduction to Intercultural and Multilingual Communication

最終回には、ディスカッションメンバー同士でお互いの異文化コミュニケーション能力についてのフィードバックをしました。自分では思っていなかった点を評価してもらえたり、逆にここを伸ばせばもっとよくなるという点も指摘してもらえたりし、今後のコミュニケーションに役立てることが出来たらいいなと思います。最終課題としては、毎回の授業を踏まえて自分の意見を記入する Learning Log の提出のみでした。先生がとても柔軟な方で、もし期限内の提出が難しかったら調整するからコンタクトしてねと言っていたのが印象的でした。

OTO

後半はお互いの予定がなかなか合わず、最後は会う予定を詰め込む形になり、12月のはじめは週3で会っていました。各言語20時間、計40時間の活動が終了した後、Final Reportを記入し提出します。その後、担当の先生とfinal meetingを行い活動について振り返りました。

2. 生活の状況

このころには、雪も積もり、本格的に寒くなってきたので、自転車通学から徒歩通学に完全に切り替えました。バスでも登校できますが、片道€3かかるので、なるべく歩くようにしていました。私は帰国までそこまで日数がなかったため、バスカードを使わずに過ごしていましたが、30分歩くとさすがに体が冷えるので、冬場はバスカードを作り、バス通学にしてもよいかもしれません。

周りとの交流という面では、12月の半ばごろに、ヨーロッパからの留学生で帰国する学生が多く、その時期からお別れを言う日々が続きました。フィンランドに来てから、さまざまなことを一緒にし、毎週会っていたので、これから気軽に会えなくなると思うと、とても寂しかったです。フィンランド人の友人も同様です。こちらに来てから、彼らのおかげでいろいろな経験をすることが出来ました。12月には、友人が実家に招待してくれ、ご両親が温かく迎えてくれました。例年はFamily Programというフィンランドの家族と交流できる、ホストファミリーのようなプログラムがあり、応募する気だったのですが、今年はコロナの影響で中止となってしまいました。そのため、このようにフィンランドの家庭に訪問する機会をくれてとても嬉しかったです。また、ある友達は、私がフィンランドのクリスマス料理が気になると言ったのを覚えていて、クリスマス休暇のあと実家からクリスマス料理をもって帰ってきて食べさせてくれました。この他にもたくさんのかしこさんのことをしてもらい、感謝してもきれないです。とても素敵な人たちばかりで、彼らの考え方からたくさん学ぶことができましたし、彼らのおかげで本当に楽しい留学生活を送ることが出来ました。



友人たちとのクリスマスベーキング

実家に招待してくれた時に、ご両親が用意してくれた夕食。スモークサーモンとカンタレリというキノコのソース。フィンランドの夏の料理だそうです。違う季節の味も楽しめるようにと考えて用意してくださったそうで、その優しさに心が温まりました。

